

Vol.02 株式会社Moff様『Moff Band』の場合

2014年、クラウドファンディング「Kickstarter」で約7万8000ドル(当時の為替レートで約800万円)のプロジェクトを成功させ、一躍話題となったウェアラブルなスマートToy『Moff Band』。内蔵された各種センサーが検出した装着者の動きと、スマートフォンのアプリを連携させてさまざまな遊びを楽しめるというものです。VAIOに課せられた使命は、この『Moff Band』のハードウェアをより良いものに改良、量産すること。ソフトウェア開発を得意とする新興スタートアップ企業Moffと、長年ハードウェアを作り続けてきたエンジニアの集うVAIOのコラボレーションが始まりました。



株式会社Moff
代表取締役
高萩 昭範さん



株式会社Moff
事業開発部長
市村 慶信さん



VAIO株式会社
NB事業部
NB設計部2課
シニア・エレクトロニカル・エンジニア
中田 修平

株式会社Moff <http://jp.moff.mobi/index.html>

『Moff Bandの夢に共感してくれたのがうれしかった』

Moff 市村 2014年のKickstarterプロジェクトの成功後、『Moff Band』は無事9月下旬から支援者向けの出荷を開始、その秋には日米のAmazonで正式販売を開始しました。瞬間的ではありますが国内おもしろランキングで1位、米国でも2位を記録するなどしっかりした足跡を残せたのではないかと自負しています。しかし、それで満足するつもりはありません。世界を相手にちゃんと戦えるもの、1位を獲れるものを作ろうというのが高萩の厳命でした。

Moff 高萩 そのために必要なものが、当初から想定していた「拡張性」の部分。2014年は1年目ということもあってスマートToyとしてローンチすれば良かったのですが、2015年はそこを超えて「単なるおもちゃ」からの脱却を図らねばならないと考えていました。

—でももう既にハードウェアとしての『Moff Band』は完成していたんですよ？そこにVAIOの出番はないように感じるのですが……？

Moff 市村 初代『Moff Band』は我々が初めて作ったプロダクトということもあって、ハードウェアとしてもう少し突き詰められることがあるだろうと思っていました。それはコスト面のほか、今後に向けて機能の拡張性を持たせていくという点においても、です。ソフトウェア面の改良はもちろん大事なのですが、まずは“土台”をより良いものにせねばなりません。

—なるほど。そこでEMS事業者としてのVAIOに依頼しようと考えられたのですね。

Moff 市村 私は常々、Moffのアイデアやアプリ、そしてそれを作ってきたソフトウェアエンジニアのチームには世界で戦うポテンシャルがあると思っていました。ですから、ハードウェアもその次元にまで高めていきたい。そう考えたとき、これまでハードウェアの世界で世界を相手に戦ってきた人たちと組むということに大きな魅力を感じたのです。何か大きな“Insight(気付き)”があるのではないかと。ただ、VAIOさんほどの

メーカーが我々のようなポツと出のスタートアップ企業の話聞いてくれるのかという不安はありました(笑)。



—実際はどうでしたか？(笑)

Moff 市村 2015年の春に勇気を振り絞って連絡させていただいたところ、すぐに「ぜひ一緒にやらせてほしい」というお返事がいただけました。

VAIO 中田 『Moff Band』が素晴らしい製品であるのはもちろんですが、タイミングもすごく良かったんです。ちょうど、その直前の4月にNB=New Businessという部署を立ち上げたばかりで、PC以外の何か新しいものを作っていこうと模索していたところでした。その点、『Moff Band』はこれまでVAIOが培ってきたワイヤレス技術やセンサー技術をそのままいかせるなど、非常に理想的な製品でした。そして何よりこの発想が面白い。

Moff 市村 最初の打ち合わせで「VAIOはつねづね、人に楽しんでもらえるものを作りたいと思っていた。『Moff Band』は楽しさに直結するすばらしい製品だと思う」と言っていた際には本当にうれしかったですね。

Moff 高萩 我々に限らずスタートアップ企業の多くはソフトウェア開発がコア。どうしてもハードウェアが手薄になってしまいがちなんです。しかし、そこを軽視して製品を作ってしまうと、後々まで足を引っ張ることになる。しかし、逆にこの点で信頼できるパートナーがいれば、我々は自分たちの強みだけに集中できます。VAIOに引き受けてもらって本当に良かったと思っています。

『クオリティとスピードを両立させてこそその “メイド・イン・ジャパン”』

—EMS事業者としてのVAIOの魅力はどこにあるとお考えですか？

Moff 市村 実は当初はVAIOに断られるであろうと思っていたので(笑)、ほかにもいくつかのEMS事業者に相談していたんです。VAIOと話ができたのはその最後だったのですが、どこよりも魅力的な提案を、どこよりも魅力的な速さで進めてくださるのに驚かされました。スタートアップ企業はスピード勝負なのでこれは本当にありがたい。

—そんなに速かったんですか？

Moff 市村 契約を結び、実際に動き出したのは7月頭だったのですが、わずか1か月弱で一次試作が完成。お盆を挟んで8月末には量産試作ができあがって、9月半ばには量産開始、9月最終週には出荷が始まりました。すでに元となる製品があったとは言え、その設計見直しと量産をこのスケジュールで実現してくれるとは……しかも、一次試作が驚くほどきれいだったんですよ。“動くことは動く”くらいのが届くだろうと思っていたのでびっくりしました。

Moff 高萩 スピード最優先でお願いしてしまっていたため、失礼ながら一次試作が上がってくるまではすごく不安でした。ですので実機を見たときはすごく安心し、同時にうれしさがこみ上げてきたのを覚えています。

Moff 市村 珍しく興奮していましたよね(笑)。

—すでに出荷開始された『Moff Band』。その今後についても教えていただけますか？

Moff 高萩 『Moff Band』は今年で3年目。これからはコラボレーションなど、他社との連携が重要になっていくため、それに対応できるハードウェアを考えていかねばなりません。

Moff 市村 そのために必要なデバイスの最新技術はなかなかスタートアップでは入手しにくい部分もあるので『Moff Band』がこれからもピカピカの存在であり続けるために、今後もいろいろと相談させていただきたいですね。

VAIO 中田 もちろんです。VAIOにはPCのエンジニアのほか、オーディオや通信など、ソニー時代にさまざまな経験を積んだエンジニアが在席

しているんで、どんなご依頼でも喜んで(笑)。また、コストダウンのご提案はもちろん、ハードウェア側で『Moff Band』をもっと面白くしていけるような提案もしていきたいと思っています。



—これからもMoffとVAIOの関係は続いていくことになりそうですね。

Moff 市村 よろしくおねがいします(笑)。ちなみに今、製造の世界では深圳のEMSが人気で、多くのスタートアップ企業がそこの製造を検討していると聞いています。理由はやっぱり安いことなのですが、ではVAIOが高いと言われるとそんなことはない。適切なコミュニケーション量で最良の結果が帰ってくるほか、製造工程のレベルも高いので、無駄なやり取りに時間を奪われたり、海外の工場に何週間、何ヶ月も張り付く必要がありません。一人で何役もこなさねばならないスタートアップ企業では担当者が拘束されると、ほかの事業に大きな影響がでますから、この効率の良さはもっと評価されるべきだと思います。

VAIO 中田 ありがとうございます。マルチタスクに働かなければならないスタートアップの皆さんの負荷を減らすのも我々の仕事だと思っています。

Moff 高萩 ほか、繰り返しになりますが、私はVAIOのスピード感を評価しています。実は今、海外では「メイド・イン・ジャパン」の評価が低下しているんです。良いものは作るけれど、時間がかかりすぎるし、高いというのがその理由。「こだわりの品質」という言葉はミスリーディングされがちなんですけど、そこにはクオリティのほか、速さも含まれているべき。その点でVAIOは本当に素晴らしかったですね。

